

P-029

離乳食提供と口腔ケアの困難感調査～母親の情報利用の実態～

廣瀬 潤子¹⁾、西田 恵¹⁾、新田 若菜¹⁾、
長尾早枝子²⁾

¹⁾京都女子大学 家政学部 食物栄養学科、²⁾長尾助産院

【目的】 乳幼児期の食形態や口腔環境は成長に伴い変化しているため、支援や情報提供は適宜行われるべきである。本研究は、授乳中の母親に離乳食の提供と口腔環境についての困りごととそれらについての情報源を明らかにすることを目的とした。**【方法】** 授乳中の母親に対しての離乳食/口腔ケアに関するアンケート調査：関西地区の母乳育児支援を行っている助産院に通院している母親74名を対象に、アンケート調査を行った。母子の基本情報、児の離乳食/口腔ケアに関して困難に感じていること、支援経験の有無、困難感を解決するための情報源、その他気になること（自由記述）を調査した。本研究は、京都女子大学臨床研究倫理審査委員会の承認を受け実施した（許可番号：2024-10変更1）。**【結果・考察】** 調査対象者の児の月齢は 16.6 ± 13.1 か月、離乳食は65人（87.8%）が開始しており、歯の萌出は58人（78.3%）が生えていた。専門家の指導を受けたことがある人は、離乳食で75.7%、口腔環境で51.4%であった。離乳食に関して困難感があると回答した人は74.3%であり、困難感の理由上位3位は「食形態（固さ）」「乳汁と離乳食のバランス」「丸飲み」となった。離乳食の困難感を解決するために最も参考にされていた情報源は、助産師であった。口腔ケアに関して困難感がある人は73.0%であり、困難感の理由上位3位は「歯磨き」「歯の生え方」「噛み合わせ」となった。口腔ケアの困難感を解決するために最も参考にされていた情報源は、歯科医師であった。口腔ケアに関してその他気になること（自由記述欄）では、「歯並び」（記述人数：5名）「舌」（5名）「虫歯」（5名）が頻出語上位3位に挙げられた。また、離乳食および口腔環境の困難感解決の情報源として、「子育て用SNS」がどちらも2位となっていた。以上の結果から、母親の求めている情報を定期的に調査し、専門家の情報提供に役立てる必要があると考える。さらに、SNSなどの情報内容のチェックも必要であると考える。本研究は、1施設のみを対象としたため今後は対象を拡大し、さらに検討する必要がある。